会議名称	県立中井やまゆり園改革アドバイザリー会議
開催日時	令和６年９月24日（火）14時00分から17時00分
開催場所	波止場会館　３階中会議室
出席者	大川委員、小西委員、佐藤委員、隅田委員、野崎委員、渡部委員
問合せ先	障害サービス課　運営指導グループ
会議概要	以下のとおり

（中井やまゆり園＝以下「園」）

【議題１　アクションプランの進捗状況について】

○　生育歴は大事だが、それが足かせになって対話ができていないのであれば逆効果だ。利用者と家族と対話するには、生育歴だけにこだわらず、支援に直接大事なものを把握して進める必要がある。

○　入浴回数を毎日に変更したと聞いたが、この先職員の負担となると、また回数が減るのではないかとの懸念がある。

○　毎日同じ人と同じ空間で過ごしているという異常性をどう変えるか。毎日同じことをして同じことを言われていたことを変えるために日中活動に出て、職員たちが新たな一面を発見して発揮していく。「正しいことをしなければいけない」となりすぎてしまうより、一番大切なのは、いろいろな人と関わる場面を作っていくことだと思う。

○　オール中井デーは、これまでの園の閉鎖的な特徴を変えるためのものだが、効果を見ながら実施方法や回数は県としても検討が必要である。

○　アクションプランは、一般論で作られたものではなく、過去の反省で作られたものだ。反省をどれだけ踏まえて、どれだけ園の実態に合わせて進めているのかが見えてこない。何が上手くいっていないのかを、自分達でわかっていないのではないか。

○　利用者の個別のアセスメントがしっかりと出来ていない。

○　全般的にアクションプランの進捗は停滞しており、元の園に戻る懸念がある。改革案については、園の方でも問題を認識して、考えていく必要がある。

○　委員からはこのままでは元の園に戻るかもしれないとの懸念があるが、園としては、アクションプランが停滞していることを把握しており、そこについては検討もしているという受け止めをした。

【議題２　利用者の医療・健康リスクの課題について】

○　いろいろな障害を持ち、適切に自身のことを表現出来ない中で体から発信されるサインに対して、自分事のように考えてもらうよう、訪問時に職員に伝えている。

○　身体機能の低下や変化についての把握が出来ていない。時間が経過してから相談され、一種のネグレクト状態ではないか。

○　20 年前の行動を制限する対応が積み上がった結果が、現在の身体機能の低下ではないか。
○　栄養や健康に対する意識をしっかりと持たないと、10 年後にはより栄養問題が深刻化するだろう。
○　薬に頼り、漫然と使い続ける対応が非常に多い。振り返りながら、一人ひとりの利用者に当てはめて考えることが出来ていない。生育歴を見ていないことで、本人の良い状態も悪い状態を正確に捉えられていない。
○　具体的な内容を聞きたい。起きてしまったことから、今後どう対応していくのかの発信が無いと議論にならない。

【議題３　中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証について】
○　中井やまゆり園の今後を考える上でも検証を進めていただきたい。
○　医療に繋げる際には、様々な情報を落とし込まなければいけない。
○　福祉は何なのかを抜きに、制度論、システム論を語っても無理だと思う。
○　ネグレクト等があると親が責められる。責められると大事になってしまう。専門機関と親を上手くつなげて、こういったことが少しでもなくなればいいと思っている。